

酒々井町

郷土研究会会報

第143号

平成24年1月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

謹賀新年

壬辰



会長 岡田利光
希望に満ちた新年をお迎えのこと
と思います。

昨年は東日本大震災により甚大な
災害が発生し、千葉県においても海
岸地域で大きな被害が出るなど、戦
後最大の地震と津波でありました。
昨年実施した35年の節目の記念展

新年を迎えて

教育長 東條三枝子

新年明けましておめでとうござい
ます。郷土研究会の皆様には郷土史
の研究活動と自己研鑽に努め、広く
文化財の保護・普及にご尽力をいた
だき心から御礼申し上げます。

昨年、35周年の佳節を迎え中央公

示会『本佐倉城跡周辺の史跡と自然
を考える』は、町内外の大勢の方々
に城跡を中心とした歴史を見て頂
き、大変好評を得ました。

本年も引き続き町内外諸史跡の研
究や自然の探求を進めてゆきますの
で、ご指導と積極的なご参加をお願
いいたします。

終わりに、会員の皆様の一層のご
健勝をお祈りし、本年もよろしくお
願い申し上げます。

民館で開催された企画展は、本佐倉
城跡と酒々井宿を歴史・自然・文化
の面から取り上げており、皆様の日
頃の活動成果を遺憾なく発揮されて
おりました。また来訪者との懇談は
「歴史のまち・酒々井」を町民に理
解していただく機会となったものと
確信しております。

郷土研究会では、会員の学習会と

して郷土の歴史を学ぶ「史談会」、見
聞と友好を広げる町内外の「見学会」
町民の皆様を対象とした「町内史跡
めぐり」、「郷土史講座」、酒々井の自
然を学ぶ「野草観察会」、春を告げる
行事として定着した「七草粥を食べ
る会」などの諸活動を続けられてい
ます。

この郷土研究会という自主団体が
35年前から行ってきた地道な努力と
活動の先見性に敬意を表さずにはい
られません。

郷土の歴史・文化・自然とともに
学びながら会員相互と友好の輪を広
げる活動は、地域の活力を高めてい
く創造的な形であり、現在、最も求
められている社会教育団体のあり方
といえます。

この一年も、郷土研究会の結束で
独創的で活力に満ちた活動に励まれ
ますよう期待しているところです。
また、町・教育委員会といたしまし
ても二人三脚で酒々井町を舞台に心
と町を豊かにする活動を続けていけ
ればと思っております。

最後ではございますが、郷土研究
会のさらなる発展を祈念し、新年の
ご挨拶とさせていただきます。

御成街道について

前田國廣



郷土研究会では、13年前の平成10年6月から平成11年11月まで延べ7日間、船橋から東金までの御成街道を歩いていきます。先輩方々の情熱と体力には敬服するものがあります。その後に入会した私は御成街道について、知識を得るため本保弘文氏の資料を参考にしてまとめてみました。

徳川家康は慶長18年(1613)12月、隠居の地である駿府に戻る途中の6日に、相模国中原(平塚市)の御

殿で、馬場八左衛門という齡80にも及ぶ老人から、「大久保忠隣が謀反を起こそうとしている」との訴えを耳にする。同行していた本多正信に、すぐに江戸に戻り、事のあらましを調べるように命じ、そして明年正月、上総東金辺りで鷹狩りを行うことを決めたようである。

そして、12日に佐倉城主・土井利勝を中原御殿に呼び、二人で密談を行った。

家康の命を受けた土井利勝は佐倉城に戻り、鷹狩りの諸準備に取りかかった。まず、家康の御成りの道であるが、従来の道は道幅が狭く、曲がりくねった所も多く、見通しも悪く警備もままならず、家康が通るにはあまりにも危険な道なので、土井利勝は船橋・東金間の新道の造成に着手することを決意する。道幅二間半(約5m)、谷をS字形にカーブする他はほぼ直線という新道、つまりこれが『東金御成街道』と呼ばれるようになった。

新道造成にあたり、利勝は下検分を行って道筋を定め、村々の請負区間を決め、名主などを佐倉城に呼んで直接命令を下した。この時動員さ

れた村の数は97、工事区間の最も長い村は船橋村の19町(2280坪)、最短が谷津村の9間(18坪)、平均が約351坪であった。また、工事は船橋から東金市滝の国道409号線に至る約34キロにわたって行われ、その先は旧道をそのまま利用して東金御殿に通じていた。

新道の造成計画と村々への伝達に10日間ほどを費やしたものと思われるため、実際の工事期間は10日から15日ぐらいであったと推測される。伝承としては「白旗と提灯を大木に掲げ、昼夜を問わず作業を続けて三日三晩で完成した」、「付近村々の農民を総動員して、一夜にして造り上げられた」、「土井利勝が自ら検分に訪れて工事を急がせ、瞬く間に竣工した」といったものがある。三日、ましてや一晩で街道が出来上がるとは思えない。突貫工事により相当な短期間で造成されたことは確かかなようである。

御成街道の造成と同時に、家康の休憩・宿泊施設としての『御殿』も建造された。

その一つが船橋と東金のほぼ中間地点にある『御茶屋御殿』である。

60間(約120坪)四方、敷地面積約3600坪、周囲には幅6坪、深さ2.5坪の空堀と、幅6坪、高さ2坪の土塁が築かれ、防衛上の設備が施されていた。内部には番所・玄関・広間・休息所・御主殿・大長屋・御厩・御鷹部屋・側近部屋などが配置された建物が造られたようである。この建物の資材はちようどこの頃、築城中であった佐倉城の建材の一部が当てられたと考えられる。現在、土塁と空堀が遺構として残っている。

もう一つの御殿の『東金御殿』は総構え1万1700坪、御殿敷地は6700坪とかなり大規模なものであった。内部には御老中部屋・小姓部屋・書院・広間・鉄砲部屋・御鷹部屋など、40を超える部屋から成る建物が建てられ、ほぼ中央に家康が使用する部屋があった。跡地は現在、県立東金高校として使用されている。

『船橋御殿』は慶長17年(1612)に、伊奈忠政が建立したものであるが、慶長13年(1608)に伊奈忠次が建てたという説もある。現在、「船橋東照宮」があり、全国一小さい東照宮といわれている。

〈家康の鷹狩りの日程〉

家康の最初の御成りは、慶長19年(1614)1月7日に江戸城を出発し東金へと向かった。随行は本多正純、近習出頭人、侍医、阿茶局側室、女中など総勢100人余り。警備には東金、九十九里方面に配備された旗本集団「上総七十騎」が当たった。

7日は葛西方面で鷹狩りを行った後、青戸御殿に泊まり、翌朝青戸を発ち、市川を経て中山法華経寺を参詣後、船橋御殿でしばし休憩。そして船橋大神宮に立ち寄った後、御成街道を通って長作村で昼食し、付近で鷹狩りも行った。さらに御成街道を進み、金親村の金光院で休憩の後、夕方、土井利勝の出迎えを受けて御茶屋御殿で一泊する。

9日の早朝、御茶屋御殿を出発して途中で鷹狩りを行い、八街の蛇田谷で昼食をとり、夕刻、東金御殿に入った。翌日からほぼ毎日東金、九十九里方面や八街、佐倉方面まで出かけて鷹狩りを行っている。1月15日、家康は東金、九十九里方面の鷹狩りを終えて江戸へ帰途に着いた。16日に御茶屋御殿で一泊し、そして青戸御殿で一泊後、18日江戸城に戻っている。

江戸城に戻った家康は、大久保忠隣を追放することによって幕府内の権力争いに決着をつけ、本多正信、正純父子に二代將軍秀忠を補佐させることにした。そして、安房館山に居を置く里見氏を忠隣と婚姻関係があったとの理由で、伯耆国(鳥取県)倉吉に国替えをした。これは事実上の改易である。

家康は元和元年(1615)11月にも鷹狩りを行った。翌年4月17日に死去。本多正信も6月7日に家康の後を追うように死んでいる。また、嫡男正純も元和8年(1622)鉄砲の無断購入などの罪で失脚し、土井利勝が権力者になり、幕政に辣腕を振るった。

東金御成りは家康の死後、秀忠が9回、家光が1回使用している。寛永13年(1636)家光の東金鷹狩りが予定されたが、突然の中止になり、これ以降は行われることはなく、寛永7年(1630)の秀忠の東金鷹狩りが最後となった。寛文11年(1671)4月、船橋、御茶屋、東金の御殿は取り壊され、なかでも將軍(大御所)が使用した部屋は畏れ多いとの理由から焼き払われたという。

好評だった記念展示会

昨年は郷土の先輩たちが郷土研究会を立ち上げてから35年の節目を迎え、この記念事業として「歴史と自然に溢れる町にふさわしいものは何か」を考え、その結果、『本佐倉城跡周辺の史跡と自然』を主題とした展示会を計画。5月の役員会で、六つのテーマに分け、作業に入りました。

- ★本佐倉城跡
- ★酒々井宿
- ★城跡周辺の神社・仏閣
- ★城跡周辺の石仏・石像
- ★城跡周辺の植物
- ★城主千葉氏の人物像



そうして10月25日から5日間、中央公民館ロビーを会場にして開催しました。短い期間ではあ

りました。小坂泰久町長・東條三枝子教育長をはじめ、文化財関係の方々など大勢の皆様に見ていただき、「幅広く町の歴史を紹介され、突っ込んだ内容で非常に質も高く、多面に亘りよくまとめられている。何らかの方法で残してくださいます」という講評を得ることができました。3日目はケーブルテレビの取材もあり、佐倉市をはじめ他の市町からも見え、恐縮いたしました。

会期中いろいろな方とお話した中で、特に話題になった事柄を列挙しておきます。



◇明治9年の酒々井駅宿見取図コーナーには近所の旦那衆が多く見え、二八そば、寺の話、火事の話、野馬会所の話などいろいろとご教示



をいただいた。
◇城跡にこんな種類野草があるとは驚いた。樹木まで調べているとは貴重である。

- ◇早速友人らと本佐倉城跡に行ってみたいという栄町の人。
- ◇千葉氏年代表に信長・秀吉などの時代背景時系列が加味されていると効果的のご教示もあった。
- ◇これほど古跡に突っ込めるなら古道の研究もしてくれないか。
- ◇町内には四か所の好眺望の場所がある。これを宣伝して櫓作りに寄与できないか。また、町内に在る坂道に名前を付けると面白いかなどなど。
- ◇いずれにしても話題の多かった展示会を終了することができました。これを機会に展示のみにとどまらず、さらに肉づけをするなど、研究を重ねる必要を感じました。

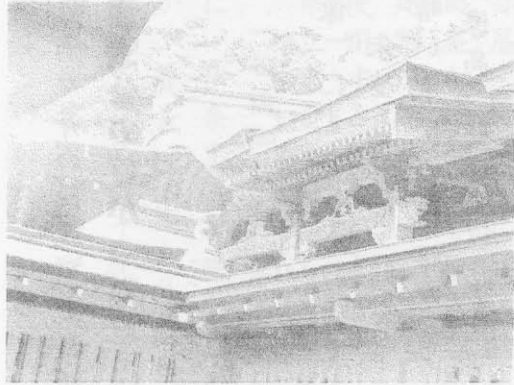
〈日帰り見学会〉

銚子方面に参加して

金谷恭介

中央公民館前を予定通り出発したバスは多古町、匝瑳市、旭市と進む。旭市では東日本大震災の影響で、屋根などの被害もまだ見られ、この地震で亡くなられた方々のご冥福を祈りながら心の中で合掌する。まもなくして最初の見学地である「猿田神社」に到着した。

猿田神社は樹齢数百年の木々から成るうっそうとした森に囲まれていて、境内の森は貴重な極相林として、県天然記念物の指定を受けている。



そして千二百年前に創建された社殿は桃山時代の厳かで豪華佳麗さを伝える建造物で、見る者の心が洗われる優雅さを感じる。祭神は猿田彦大神である。

天孫邇邇芸命を日高の高千穂に導き給いし神で、このご神徳を崇め奉り、開運の神として厚く信仰されている。心静かに拝礼する。社幕に目を移すと、どこかで見たことがある社紋に気がついた。千葉氏の家紋に似ているので宮司に尋ねると、本神社はその昔子孫が途絶え、本佐倉城主千葉家より養子をもらい、その子に毛利家より嫁を娶り、その時両家の家紋を合わせ、現在の社紋にしたのとこのである。また、神殿左側に神輿庫があり、菊の御紋の見事なお輿が鎮座しており、祭り好きな私は時を忘れて見入ってしまった。

次に訪れた犬吠埼灯台は関東では一番早く日の出が見られる所であり、レンガ造りの西洋式一等灯台でイギリス人により建造され、高さ32.8mを誇り、青い海に白い灯台が絵になる。遠く海を眺めていると、地球が丸いのがあらためて認識できた。

昼食はウオツセ21で名物海鮮丼を賞味する。さすが漁獲高日本一を誇る魚港であり、豪華版に舌鼓を打つことができた。食後は買い物ツアーに変貌。両手に買い物袋のお土産を買い込み、店員たちに見送られて次

の見学地であるヤマサ醤油工場へと向かう。

創業三百年以上の歴史を持つといわれるこの工場の見学は、最初に映像を通して醤油のできるまでを観賞の後、原料貯蔵タンク、もろみ熟成、搾り、びん詰めを順次見学した。また、利根川河口の現在地で醤油造りを始めたのは、この場所が醤油造りに良い気候風土で、しかも原料や製品を運び易く、遠く江戸や関東一円に船で運んだそうです。

帰路、満願寺に参詣。巡礼の歴史と伝統を受け継いで創建されたお寺です。西国四十四か所、秩父三十三か所、四国八十八か所の、165か所の観音の霊場を拝礼と巡礼を終え帰路に着いた。

帰りの車中は皆さん気分も和氣あいあい、よもやま話に花が咲き、見学会を楽しむ雰囲気、心が和み、大変有意義な楽しいひと時を過ごすことができた。

千葉県には縄文時代からの土器や貝塚、古墳、遺跡、旧跡、名勝旧跡が数多くあります。これからも郷土研究会で見て歩けることを楽しみにしています。

《酒々井の伝説》―お話その3―
信玄公の首がついたお不動さま

勝蔵院

今回は勝蔵院の本尊「不動明王坐像」にまつわるお話です。

朱塗りの仁王門をくぐると、ほの暗い本堂の内に大きなお不動さま(像高1.3m)が辺りをにらんでいらっしやいます。このお不動さまは江戸時代の初め、堀田正信公が佐倉のお殿さまであった時(1651〜60)、成田のお不動様に多くの人がお参りするの、こちらにも人を呼ぼうと江戸の仏師に造らせたものです。

その時、この仏師は甲斐の国(今の山梨県)からも、武田信玄公の像を頼まれていました。いよいよ首を付ける時になって、お不動さまの首を信玄公の像に、信玄公の首をお不動さまにつけて信玄公の髪を植えてしまいました。

よくよく見ると本当に恐い顔をしていて普通のお不動さまとは余程違っています。「成田の姉不動」と呼ばれたこのお不動さまは、あまり参詣

人もなくてお殿さまのもくろみはずれたようです。

『古今佐倉真佐子』より

当時、このお不動さまは東台(今の中央台3丁目あたり)の地にありました。元禄年間(1688〜1704)に佐倉のお殿さまであった戸田山城守忠昌の奥方さまが重い病にかかりました。あちらこちらから有名な医者を呼び、あらゆる手をつくしましたが少しも効き目がありません。ある夜、夢に酒々井の不動に祈願すれば治るとのお告げがありました。東台にあったささやかな不動堂を探しあて、今の馬場の地に移し祈願したところ、三七日(21日)目にはすっかり元気になりました。お殿さまは大いに喜んで、立派な不動堂を建立されたということです。

『印旛郡誌』より

※なお、『酒々井町史』編纂のための資料調査の時、深山武夫さんのお宅で見つかった文書によって勝蔵院を寄進したのは、戸田山城守忠昌ではなく子供の能登守忠真(ただかね)であること、元禄12年(1699)11月に着工し、同13年4月に完成したことが判りました。

〈観察メモ〉

野草部

セリ (セリ科)



日本各地の湿ったところや溝の中に茂る多年草です。春に新苗がたくさん出るありさまが、競り合っているように見えることから「セリ」と呼ばれるようになったといわれています。

夏に花茎を伸ばして、白い小さな花をつけます。春の七草でもおなじみで、薬草として精を養い、血脈を整え、神経痛、痛風、リウマチに効くとされます。

香りが良いのでお粥やおひたし等で味わってみてはいかがですか。「五月片は食べるな!」といわれるのは、その頃になると葉に虫が卵を産みつけるからです。

見学

案内

日帰り見学会

初詣・鹿島神宮方面

1月24日(火)

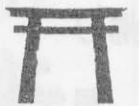
雨天代替日1月26日(木)

JR酒々井駅から乗車し、水郷地帯の高架が続く鹿島神宮駅に到着、駅から徒歩10分の鹿島神宮は鹿島市にある神社で、常陸国一の宮で旧社格は官幣大社です。

日本全国に約600社ある鹿島神宮の総本社です。神宮には鹿園があり神の使いとして親しまれています。この枝角を英語でアントラーと言います。「鹿島アントラーズ」のチームの由来ともなっています。

要石や「日本三大楼門」に数えられる楼門などを見学いたします。

その後、国指定重要伝統的建造物群保存地区として、利根川の水運で栄えた商都佐原に引き返して昼食の後、帰途につきます。



名勝探訪

お台場方面

3月14日(水)

雨天代替日3月16日(金)

京成酒々井駅から新橋まで行き、ここでゆりかもめに乗り換えて芝浦埠頭まで行きます。ここからレインポーブリッジを歩いてお台場まで行きます。

東京港のお台場とは、江戸幕府が外国艦船(黒船)の攻撃から江戸を守るために作った台場(砲台)。5つ



の台場が完成しましたが、現在残っているのは2つの台場でレインポーブリッジから見下ろすことができません。フジテレビを見学後解散して自由に昼食をとり、帰途につきます。なお、お台場には、日本科学未来館、パレットタウン等の施設がありますので、昼食後各自思い思いに楽しむことができます。

《あとがき》

郷土研にとつての昨年は、東日本大震災の影響で中止を余儀なくされた「宿泊見学会」などを除いては、順調に消化することができました。特に発足35周年記念展示会は大変好評を得たイベントとなりました。今年もいろいろな行事が予定されています。友人・知人をお誘いしての多くの参加を期待しております。

なお、広報部では会員皆様からの積極的な投稿をお待ちしています。「研究論文」「詩や俳句などの文芸文」「紀行文」などなど。お気軽にお寄せください。

郷土研日誌

月日	内容	参加者
23.9.26	野草観察会「本佐倉城跡方面」	26名
9.27	会報142号印刷	6
9.29	〃 発送	16
10.01	史談会「中世の佐倉」③	18
10.04	日帰り見学会受付	4
10.07	歴史ウォーク 下見歩き	6
10.11	日帰り見学会「銚子方面」	34
10.23	酒々井町歴史ウォークガイド	6
10.25~10.29	発足35周年記念展示会 中央公民館	403
11.09	町自然観察会9期生講師派遣	2
11.10	名勝探訪「千葉方面」下見	5
11.11	県文化財講習会	2
11.15	研修部会打合せ	8
11.29	運営委員会	16
12.02	会報編集会議	5
12.03	史談会「中世の佐倉」④	16
12.03	県郷土史研 研究発表会(佐原)	1
12.08	名勝探訪「千葉戦争遺跡」	20
12.09	会報編集会議	5
12.15	公民館野草観察「冬支度」	2
12.16	会報編集会議	6
12.20	展示会資料総まとめ	12
12.22	会報最終校正	6

郷土研行事案内

平成24年1月～3月

	1月	2月	3月
史談会	休講	4日(土) 13:30 中央公民館会議室 「中世の佐倉」⑤ 講師：高橋健一先生	3日(土) 13:30 中央公民館会議室 「中世の佐倉」⑥ 講師：高橋健一先生
日帰り 見学会	<p>[初詣・鹿島神宮方面]</p> <p>1月24日(火) 小雨決行 雨天代替日 1月26日(木) 強風の場合は中止 集合時刻・場所 8:30 JR酒々井駅 改札口前 資料代 100円 (ただし、交通費等各自負担) コース JR酒々井駅—鹿島神宮駅…鹿島神宮…鹿島神宮駅—佐原駅 …自由散策・昼食…佐原駅—JR酒々井駅 一部コース変更の場合もあります 問合せ 寺本 () まで</p>		
野草の会	<p>[七草粥を食べる会]</p> <p>2月10日(金) 会場 中央公民館講堂 受付 11:00 会食 11:30 会費 600円 申込受付 参加ご希望の方は最寄りの運営委員にお申込み下さい 総会日(1月29日)にも受け付けます 当日お手伝いをして下さる方は9:00頃公民館調理室において下さい 問合せ 犬島 () まで</p>		
名勝探訪	<p>[お台場方面]</p> <p>3月14日(水) 雨天代替日 3月16日(金) 集合時刻・場所 8:20 京成酒々井駅 改札口前 資料代 100円 (ただし、交通費等各自負担) コース 京成酒々井駅—新橋駅 (ゆりかもめ) —芝浦埠頭駅… …レインボーブリッジ…お台場…フジテレビ見学…昼食・解散 一部コース変更の場合もあります 問合せ 寺本 () まで</p>		
定期総会	<p>[第36回 定期総会]</p> <p>1月29日(日) 中央公民館2階研修室 受付 13:00 開会 13:30 年会費1000円をご用意ください 議題 <ul style="list-style-type: none"> ● 平成23年度事業報告および決算の承認について ● 平成24年度事業計画案および予算案について ● その他 </p>		